

○地域貢献研究T004-2

研究課題:

「自治体における健康づくり施策の推進サポートによる効果の客観的評価」

○研究代表者	人間科学センター教授	岩井 浩一
○研究分担者 (12名)	理学療法学科教授	居村 茂幸
	医科学センター教授	小池 和子
	医科学センター教授	永田 博司
	付属病院教授	新井 雅信
	看護学科教授	堀内 ふき
	作業療法学科助教授	齋藤さわ子
	理学療法学科講師	滝澤 恵美
	医科学センター助手	桜井 直美
	人間科学センター嘱託助手	山下 修平
	医科学センター嘱託助手	篠原 拓
	つくば国際大学教授	宮崎 泰
	ケアセンター阿見	倉科 周介

○研究年度 平成18年度

(研究期間) 平成17年度～平成19年度(3年間)

1. 研究目的

本研究は、阿見町の健康づくり施策、および福祉・介護施策と連携し、それらを積極的に推進するための方策について研究する。具体的には、すでに蓄積されている様々なデータを整理し、また新たなデータ収集を行い、それらのデータリンクージュを図って総合的なデータ解析を行う。データ解析結果に基づいた健康づくり活動の展開方法を検討し、さらにそれらの評価を行うとともに、科学的根拠のある研究成果を自治体にフィードバックしていくことを目指している。自治体における健康づくり活動および介護予防活動は保健・医療・福祉の各領域にまたがっており、本学の様々な分野の研究者が有機的にチームを組んで様々な課題に対応していく必要がある。

2. 研究方法

今年度は、1) 高齢者の健康・体力水準の評価、2) 高齢者の健康度の推移検討、3) 介護予防・介護サーベイランス構築事業の推進というように、多くの課題に取り組んだ。また、2～3月においても、従来から継続して実施している地区(君原小学校区)における高齢者体力測定の実施、およびあみ健康づくりプラン21の中間評価に向けた協議等が予定されている。

1) 高齢者の健康・体力水準の評価

阿見町中央公民館において、2007年1月13日に高齢者を対象とした体力測定を実施した。今年度は33名の参加があった。また、君原公民館では、2007年2月17日に実施予定であり、現在64名の参加申し込みがある。



2) 高齢者の健康度の推移

阿見町に居住する65歳以上の高齢者計7800名を対象とした健康調査を実施し、1996年、2000年に実施した健康調査データとのデータリンケージを図り、健康状態の推移および健康状態に影響を及ぼす要因について、データ解析を継続的に実施している。この解析結果は、来年度阿見町で検討される予定のあみ健康づくりプラン21の中間評価において活用できるよう、とりまとめを進めている。

3) 介護サーベイランス構築事業

阿見町の介護保険データベースをもとに介護サーベイランス構築事業の推進に向けた研究を開始しており、小池和子教授を中心として検討を進めている。

4) あみ健康づくりプラン21のサポート

2007年3月に阿見町で開催される健康づくりプラン推進委員会において、サポートの進め方について協議を行う予定である。

3. 研究結果と考察

現在、各テーマともデータ解析を行っているところであるが、今年度の主な研究成果は以下のとおりである。

1) 昨年度から中央公民館において高齢者体力測定を実施しているが、2回とも参加した者は15名であった。1年間の変化は表1に示した。その結果、握力とファンクショナルリーチの成績は有意に向上しており、また歩行速度、長座体前屈などもわずかな向上が見られている。この結果から、体力測定参加者の体力は維持されており、今後も継続的な測定により健康意識を高めていくことが有効と考えられる。

測定種目	2005年12月	(標準偏差)	2007年1月	(標準偏差)	検定結果
身長(cm)	156.47	8.85	156.23	9.02	
体重(kg)	60.17	10.44	60.12	9.62	
開眼片足立ち(秒)	36.13	39.36	23.67	32.29	
閉眼片足立ち(秒)	3.53	1.44	3.60	2.32	
握力(kg)	26.98	7.39	28.03	8.03	p<0.05
普通歩行速度(秒)	3.77	0.42	3.64	0.55	
最大歩行速度(秒)	2.80	0.47	2.67	0.37	
長座体前屈(cm)	41.77	6.50	43.19	9.21	
ファンクショナルリーチ(cm)	21.88	3.50	31.17	9.00	p<0.001

2) 阿見町の介護保険申請者の疾患内訳は、脳血管疾患、認知症、変形性関節疾患、心疾患、糖尿病の順である。主要死因のうち、脳血管疾患と虚血性心疾患は改善が見込まれ、この傾向を地域の介護需要の構成に当てはめると1950年代の世代が後期高齢期に差しかかる21世紀第2四半期ころには、脳血管疾患による介護需要は著しく減少すると予測された。

4. まとめ(結論)

阿見町では、平成16年3月に「あみ健康づくりプラン21」を策定し、町民の健康づくりの推進を図っているところである。毎年3月に進捗状況を確認しており、開始から5年後には中間見直しを実施する予定となっている。本研究の成果として客観的評価を提供することにより、中間見直しの際においては、より綿密な健康づくり施策の推進サポートを可能にしたい。

5. 成果の発表(学会・論文等、予定を含む)

○体力測定に参加した高齢者を対象に、結果報告会を開催予定。(2007年3月8日、君原公民館)

○池田、飯野、小池、永田、倉科:自立不全の総合的制御—地域介護量の圧縮を目指して 第7報 介護需要動向の長期展望、第65回日本公衆衛生学会(2006年10月、富山)

○飯野、池田、小池、永田、倉科:自立不全の総合的制御—地域介護量の圧縮を目指して 第8報 広域予測から地域計画へ、第65回日本公衆衛生学会(2006年10月、富山)

○小池、永田、飯野、池田、倉科:自立不全の総合的制御—地域介護量の圧縮を目指して 第9報 認知症の時間分布の初期値、第65回日本公衆衛生学会(2006年10月、富山)

○ 体力測定データによる研究成果はJournal of Aging and Physical Activity誌に投稿予定